



日本三大雪溪の一つ針ノ木大雪溪

【中信署】 鹿島森林事務所内の籠川谷国有林内にある針ノ木大雪溪は、後立山連峰のひとつ針ノ木岳と蓮華岳の間に位置する籠川の源流部、針ノ木峠の長野県側にあり、「針ノ木岳・爺ヶ岳特定地理等保護林」に指定されています。

白馬大雪溪、剣沢大雪溪と並んで日本三大雪溪の一つと称され、春は多くの残雪に囲まれ、夏はさわやかな風に包まれ、秋は荘厳な紅葉に癒やされ、自然を

満喫できるスポットです。

この雪溪は、天正十二年（一五八四年）十一月下旬、越中の国主佐々成政が豊臣秀吉に対抗するために、浜松の徳川家康へ「織田家再興」の進言に向かう決心をして、厳寒の立山連峰越えをしたとされる「さらさら越え」のルートであったと伝承伝説されています。

また、明治初期には、この雪溪をルートの一部とした、両県間を結ぶ荷牛の通行が可能（全長約九十キロ、幅員三メートル）物資交流のための山岳有料道路「越信新道」が造られ利用されました。しかし、その道は完成後数年間で自然の猛威と資金不足を原因に、廃道になったとのこと。

この雪溪周辺の山岳文化史を語る上で、百瀬慎太郎（明治二五年―昭和二四年）ははずせません。

慎太郎は、登山文化の黎明期、大町市で当時の北アルプス登山の重要な拠点とされていた「対山館」という旅館を経営しており、また、大正六年に日本全国に先駆け「大町山案内人組合」という山岳ガイドの組織を創りました。

さらに、針ノ木大雪溪の上下に「大沢小屋」、「針ノ木小屋」を建設しました。この二軒の小屋は、現在でもこの山域登山の重要な基地となっています。

また、慎太郎は文学にも造詣があり、文末の名句に代表される数々の歌を残し「山の歌人」との愛称を持っています。

慎太郎の功績を称え、この山域の開山祭は「慎太郎祭」という名称で、毎年六月の第一日曜日に行なわれています。意外と知られていませんが、この時期の雪溪登山は、起伏が少ないので極めて楽に針ノ木峠まで登ることが出来、また大町山案内人組合等のサポートにより快適な登山を味わうことが出来ます。

一步その山域に足を踏み入れると、多くの観光客で賑わう扇沢トローリーバス駅での喧騒が嘘のように感じるほどの静寂な山岳風景が広がります。

壮大な自然が生み出した大雪溪という白い溪谷美の堪能に、来たる登山シーズンは針ノ木大雪溪にお越し下さい。

山を想へば人恋し

人を想へば山恋し

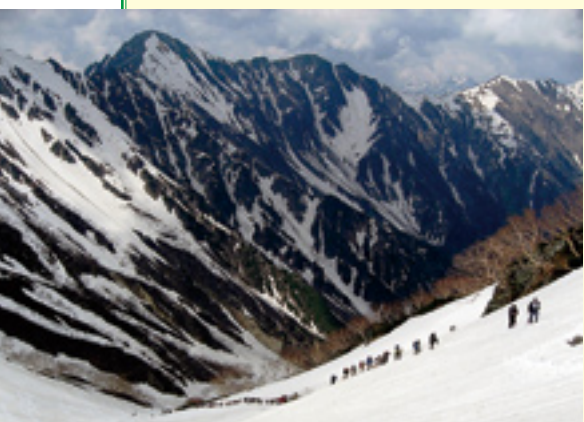
百瀬慎太郎

◆アクセス

JR大糸線「信濃大町駅」からバスに



冷気にかすむ雪溪



慎太郎祭記念登山の風景



夏の針ノ木雪溪

て「扇沢トローリーバス駅」へ約四十分、雪溪尻まで徒歩にて、春先は約一時間、夏から秋は約二時間